

U.S. Indicators

発表日: 2018年11月16日(金)

米国 18年10月消費者物価

～物価上昇率は2%台で安定しておりFRBは漸進的な利上げを継続へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

	消費者物価											
	総合		コア		エネルギー	食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
17/10	+0.078	(+2.0)	+0.214	(+1.77)	▲1.4	+0.1	+0.3	▲0.2	▲0.6	+0.2	+0.0	+0.3
17/11	+0.336	(+2.2)	+0.121	(+1.71)	+3.2	+0.0	+0.2	▲0.9	+1.5	+0.0	▲0.1	+0.2
17/12	+0.202	(+2.1)	+0.239	(+1.78)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.2	+0.3	+0.2	+0.3
18/01	+0.539	(+2.1)	+0.349	(+1.82)	+3.0	+0.2	+0.2	+1.7	+1.8	+0.4	+0.4	+0.3
18/02	+0.150	(+2.2)	+0.182	(+1.85)	+0.1	▲0.0	+0.3	+1.5	+0.0	▲0.1	+0.1	+0.2
18/03	▲0.063	(+2.4)	+0.176	(+2.12)	▲2.8	+0.1	+0.3	▲0.6	▲1.2	+0.4	▲0.1	+0.3
18/04	+0.221	(+2.5)	+0.098	(+2.14)	+1.4	+0.3	+0.3	+0.3	+0.2	+0.1	▲0.1	+0.2
18/05	+0.209	(+2.8)	+0.171	(+2.24)	+0.9	+0.0	+0.2	+0.0	+0.4	+0.2	▲0.1	+0.3
18/06	+0.129	(+2.9)	+0.162	(+2.26)	▲0.3	+0.2	▲0.0	▲0.9	+0.4	+0.4	▲0.0	+0.2
18/07	+0.171	(+2.9)	+0.243	(+2.35)	▲0.5	+0.1	+0.2	▲0.3	+0.3	▲0.2	+0.1	+0.3
18/08	+0.223	(+2.7)	+0.082	(+2.20)	+1.9	+0.1	+0.3	▲1.6	+0.9	▲0.2	▲0.3	+0.2
18/09	+0.059	(+2.3)	+0.116	(+2.17)	▲0.5	+0.0	+0.1	+0.9	▲0.3	+0.2	▲0.3	+0.2
18/10	+0.331	(+2.5)	+0.193	(+2.14)	+2.4	▲0.1	+0.3	+0.1	+1.1	+0.2	+0.3	+0.2

(注) 括弧内は前年同月比

18年10月の消費者物価(総合)は、前月比+0.331%(前月同+0.059%)と市場予想の前月比+0.3%と一致した。食料品は肉や果物・野菜などの続落により前月比▲0.1%(前月同0.0%)と下落した一方、エネルギーがガソリン、電力・ガスの上昇や、燃料油の加速によって前月比+2.4%(前月同▲0.5%)と上昇に転じた。また、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.193%(前月同+0.116%)と加速し、市場予想の同+0.2%と一致した。

市場は、インフレ加速への警戒を強めているが、10月のCPI統計は予想と一致し2%台で安定していることから、FRBの漸進的な利上げ継続姿勢に変化はないと考えられる。

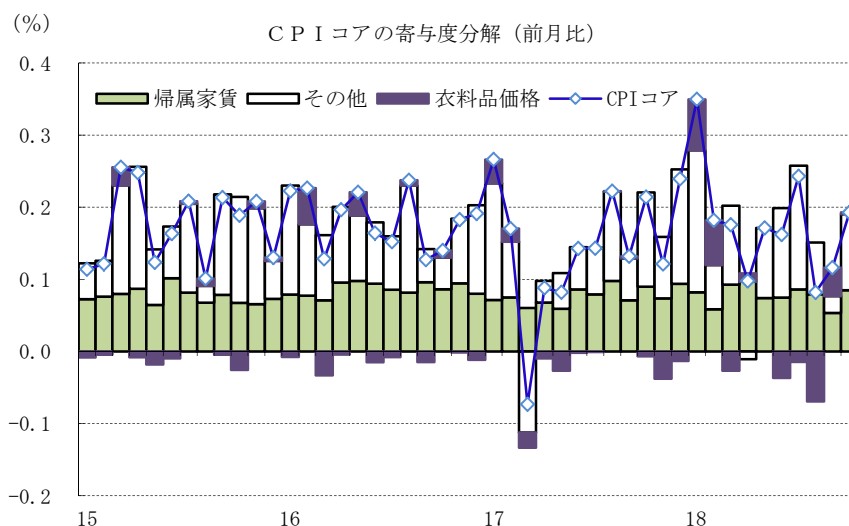
CPIコアは、変動の大きいホテル等宿泊費などの影響により毎月加速と減速を繰り返しているが、均して基調をみると低過ぎず高過ぎない上昇ペースを維持している。貿易戦争、人手不足、地政学リスクなどのインフレ押し上げ圧力とドル高、IT改革などによるインフレ抑制要因のせめぎ合いが続いていることで、インフレは安定していると判断される。

CPIコアでは、サービスの伸び率が維持されたものの、商品(財)が上昇に転じた。商品(財)価格では、新車、処方箋医薬品、教科書が下落幅を拡大したほか、コンピューター、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が下落に転じた。また、テレビやゲームなど娯楽商品の下落が続いた。さらに、アパレル、アルコール飲料が上昇幅を縮小した。一方で、中古車が前月比+2.6%と前月の同▲3.0%から大幅な上昇に転じたうえ、家庭用家具・備品、処方箋外医薬品、自動車部品・設備などが上昇したことで、商品コアは前月比+0.3%(前月同▲0.3%)と上昇に転じた。

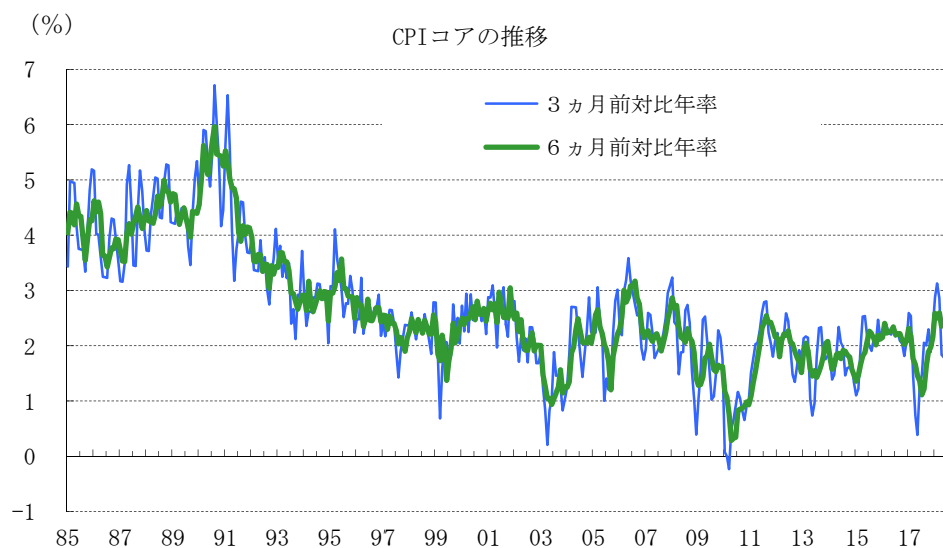
サービスに関しては、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比▲2.4%(前月同▲1.2%)と下落幅を拡大したほか、航空運賃など公共サービスが同▲0.1%(同+0.4%)、カー・リースが同▲1.2%(同+0.3%)、電話サービスが同▲0.2%(同+0.1%)、インターネットサービスが同▲0.4%(同+0.3%)と下落に

転じ、スポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが同0.0%（同+0.7%）と鈍化した。

一方、賃貸料が前月比+0.2%（前月同+0.2%）、医療保険などを含む医療サービスが同+0.2%（同+0.2%）と同率の伸びとなった。また、帰属家賃が前月比+0.3%（前月同+0.2%）、レンタカーが同+3.3%（同+2.2%）と上昇率が高まったほか、自動車保険が同+0.5%（同+0.8%）と鈍化も高い伸びを維持したこと等を背景に、サービスコアは前月比+0.2%と前月と同じ伸び率となった。



CPIコアのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+1.6%（前月+1.8%）と鈍化した。また、6ヵ月前対比年率で+2.0%（前月+1.8%）と加速したが、低い伸びにとどまっている。CPIコアの上昇モメンタムは、基調としては安定しており、川下でのインフレ加速の兆しはみられない。



10月の消費者物価動向を前年比で見ると（以下、前年同月比）、総合が+2.5%（前月+2.3%）と市場予想の+2.5%と一致した。食料品が+1.2%（前月+1.4%）に低下したほか、CPIコアが+2.1%（前月+2.2%）と低下し市場予想の+2.2%を下回った一方、エネルギーが+8.9%（前月+4.8%）と

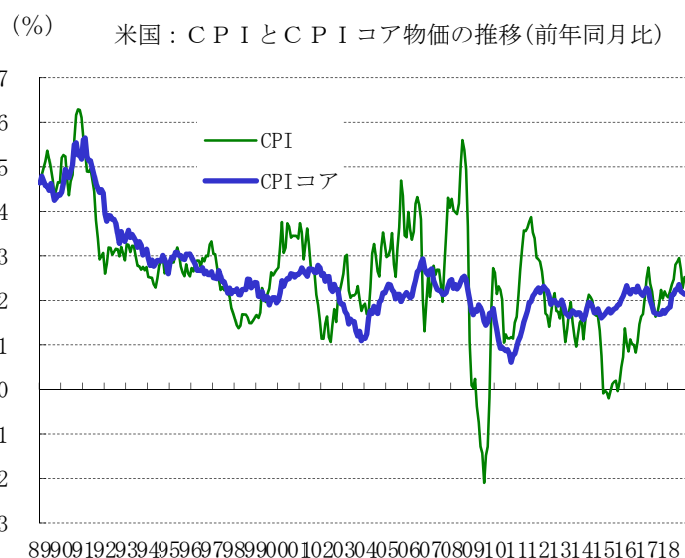
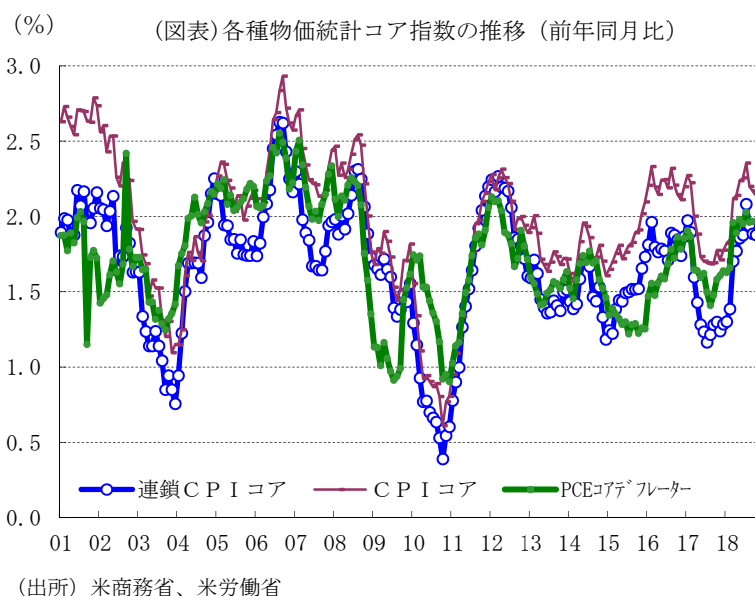
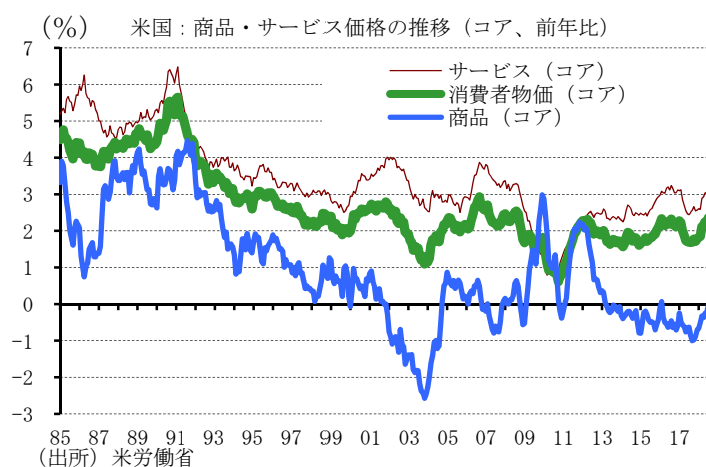
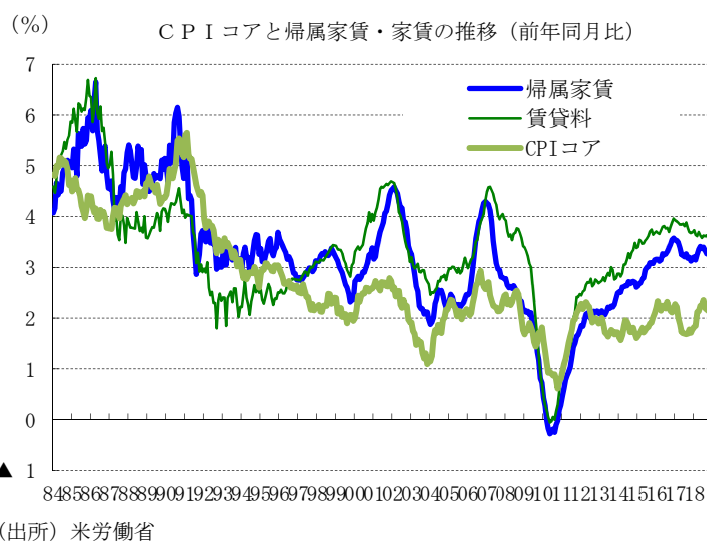
上昇した。

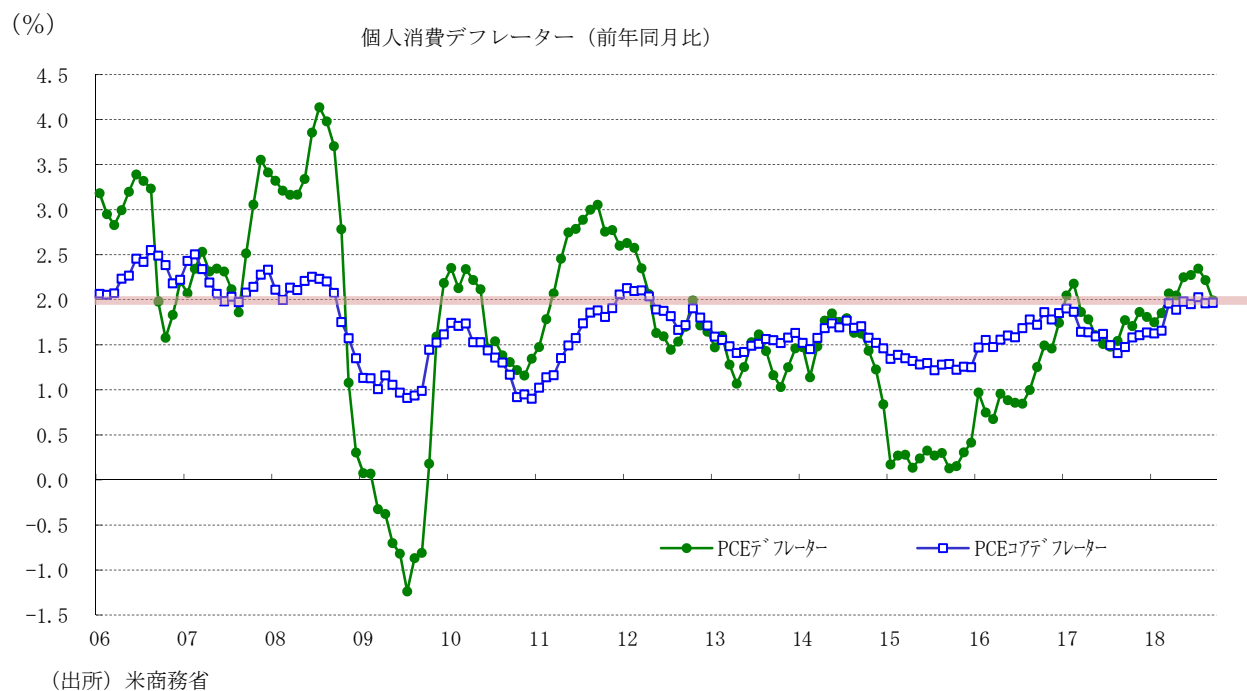
CPIコアでは、財コアが▲0.1%（前月▲0.3%）と下落幅を縮小した。内訳をみると、テレビやゲームなど娯楽商品が下落幅を拡大した一方、新車、家具、医薬品などが上昇幅を高めたほか、衣料品が下落幅を縮小し、中古車が上昇に転じた。

サービスコアは+2.9%（前月+3.0%）と低下したが、安定した伸びを維持した。内訳では、帰属家賃、賃料、自動車保険、医療費など需要の強い分野が上昇を続けたものの、通話サービスが下落に転じた。

より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.88%（前月+1.88%）と低い伸びにとどまっております、加速感に乏しいままである。

これまで公表された統計から、FRBが目標としている10月のインフレ統計を予測すると、PCEデフレーターは前年同月比+2.0%（前月同+2.0%）と横ばいになる一方、PCEコアデフレーターは前年同月比+1.8%（前月同+2.0%）に低下すると予想される。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。